

# JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー(1814～1875)



## 鉛筆デッサン(秋の雁 1865 年作の習作)

ジャン＝フランソワ・ミレー

休息する羊飼いの少女の姿はミレーがバルビゾンに移住する以前から

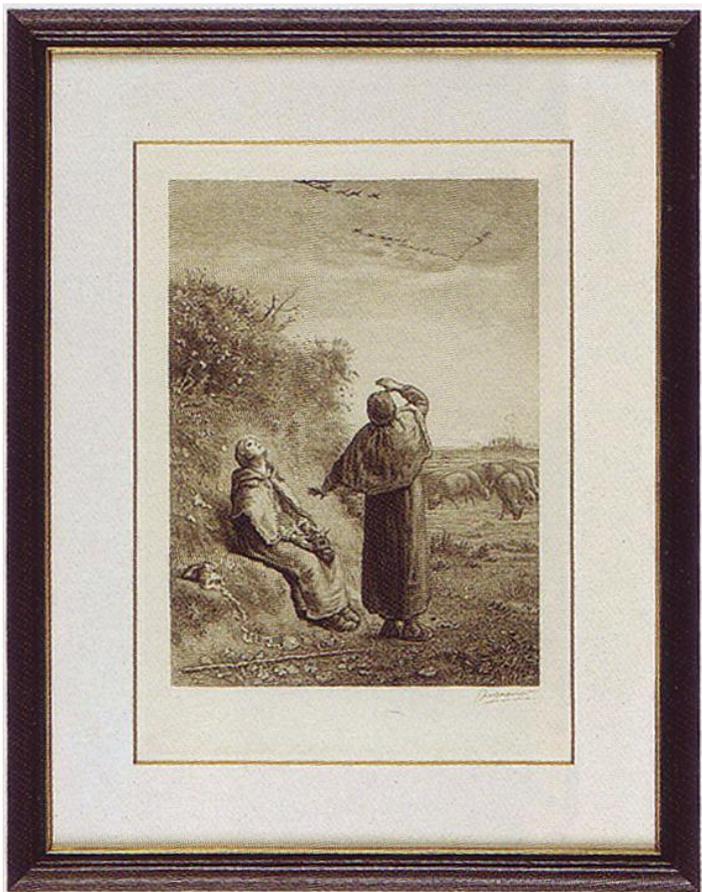
単身像ではよく描かれてきたが 1850 年代中頃には人物像が二人になるものが現れる。

また、1860 年代の素描には顕著な古典的造形性が見られます。

**バルビゾン七星派 ・ 真の農民画家**

# JEAN-FRANCOIS MILLE

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



作品名 秋の雁 (1865年作)

種類 エッチング

サイズ 68×52.8 cm

## 略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1856 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バルビゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬